

中国語スピードマスター事例報告

～CALL教材併用における工夫～

長野大学環境ツーリズム学部 ビラール イリヤス

bilal@nagano.ac.jp

一 概要

周知のように、今日の全入時代では、入学者の基礎学力や学習意欲はさまざまである。このような状況下では、どうすればより多くの学習者が学習内容に興味を示すのか、どうすれば彼らに学び易い環境をつくり、彼らのモチベーションを上げることができるかを工夫しなければ、現況では従来の教育手法だけに頼って、より多くの学生に効果的な学びをしてもらうことが難しいと言わざるを得ない。

一方では、学習者の学習を効率化する環境が整っていると言える。今では、情報通信技術が発達し、インターネットやネットワークベースの学習環境が日々進化してきている。学習者の層やニーズに合わせて、学習し易い形で教材を提供することができるようになってきている。パソコンはもちろん、iPhone などのような携帯便利な器具一台だけで、語学学習のあらゆる訓練を参考書やその他の学習用具なしでもこなすことが可能となっている。しかもこのような器具は、学習者が常時所持しているもので、何時でも、何処でも勉強できる状態にある。つまり、学習環境改善に有利な条件が整っていると言える。

しかし、如何に優れた学習環境に恵まれようが、如何に革新的な学習サポート機材を持っていようが、学習者本人の努力なしでは、語学力が自然に学習者の身に付くということはありません。したがって、語学学習を効率化・スピードアップさせるためには、学習教材や学習手法などを改善すると同時に、学習者に学習内容に興味を持たせ、彼らのやる気を起こすことが不可欠である。

ここで、どのようにして学習者のモチベーションを上げ、彼らの語学学習をスピードアップさせ、短期間で高いレベルに到達させることに成功したかを紹介する。

二. 大学の組織的な取り組みと学習者の達成成果

長野大学では、国際化時代に相応しい人材を育成するために、「国際キャリア英語特別コース」と「国際キャリア中国語特別コース」を立ち上げた。これらのコースの目標は、高度な外国語コミュニケーション能力を身につけ、異なる文化や社会環境を理解し、グローバル社会における問題解決能力を有する国際的な人材を育成することである。

中国語特別コースへの参加条件は、在学生1、2、3年生に限定し、中国語未修者でも参加できるようにした。その結果、初年度の2012年度は5名、2013年度は5名、計10名がコースに参加した。

「国際キャリア中国語特別コース」の授業形態と達成目標は以下の表の通りである。

年次	正課カリキュラム	正課外カリキュラム	自学自習	中検目標	新HSK目標
一	授業（週2）＋ゼミ	会話強化（初級編）	CALL教材	4～3級	2～3級
二	授業（週2）＋ゼミ	会話強化（中級編）	CALL教材	3～2級	4級
三	授業（週2）＋ゼミ	会話強化（上級編）	CALL教材	2～準1級	5級
四	中国協定校留学			1級	6級

※CALL教材 (<http://www2.nagano.ac.jp/biraru/Chinese/>) 主に正課外自学自習用に使う。

※会話強化では、週一回中国からの留学生と学んだ学習内容に沿った会話練習を行う。

2012年度生5名のうち、2名が1年未満で、新HSK5級に合格し、長野大学が提供する中国留学の補助金を得る資格を取得し、二人とも半年間中国で留学した。彼らは現在新HSK試験の最上級である6級取得済みである。残りの3名のうち2名が今年3月の時点で新HSK試験の4級に合格し、2013年6月5級の試験を受ける予定でいる。2013年度生の5名のうち、4名が2013年6月現在新HSK模擬試験では2級に高得点で合格している。

三. 学習をスピードアップさせるための工夫

できるだけ早目に参加者の語学力を上げるために、学習を以下の手法で展開した。

1. 正課で学ぶ単語を級別に分類することによって、単語レベルで級別の到達度を明確にし、学習者に達成感を感じ取る仕組みを取り入れた。

- ①各級の単語範囲を調べ、正課授業と連動させた。
- ②単語・語彙を出来る限り用途別に分類された形で与えるようにした。
- ③各級で用途別に分類された単語や語彙に関して更に上の級、あるいは下の級の関連語彙や用語を学べるように工夫した。
- ④各語に常用フレーズを付け、実際に使える実感を味わえるようにした。
- ⑤達成感を感じ取らせるために、自己到達度を分かるようにした。

2. 正課で学ぶ文法事項と各級で要求される文法事項を関連させ、学習内容の到達度を明確にさせることにした。

- ①各級で要求される実詞、虚詞を正課で学ぶ内容と対応させ、到達度を分かるようにした。
- ②各級で要求される文法事項も参考のため整理して配布した。

3. 何時でも何処でも学べるように、CALL教材のほかにも、USB等で各種教材を配布することにした。

詳細について、会場にて報告する予定である。